リスク対策.com
危機管理とBCPの専門メディア

リスク対策.COM 連載

企業向け危機管理訓練シナリオ

令和８年熊本地震 × 避難のあとに問われる危機対応

～安全第一と人命優先を、最後の一手まで～

今回の背景ニュース

令和８年７月28日午後、熊本県宇城市・氷川町で最大震度７を観測する地震が発生した。製紙工場の煙突倒壊、商業施設の崩落、半導体・自動車関連工場の被災など、企業の被害が相次いだ。多くの企業が操業を停止し、避難、安否確認、被害の確認に追われた。

＊揺れが収まり、外に出て、人数を確認した。そのあとの数十分に、あなたの会社では誰が、何を伝えることになっていますか？

セルフチェック：あなたの会社の現状は？

- □ 外に出て人数を確認したあと、次に何をするかを決めてある
- □ 外に出た人へ最初に連絡する人と、その人がいない日の代わりが決まっている
- □ 連絡を受けた人が、何を返すかを決めてある
- □ 現場に任せるとき、どこまで任せるかを伝えてある
- □ 外で待つあいだ、暑さ・寒さ・雨をしのげる場所を決めてある

❶今回のシナリオ：外に出たあと、届かなかった数十分

強い揺れのあと、外に出た。けが人はいない。そのあとの数十分を、三人の立場から見ていきます。

【状況設定】

- 時点：ある平日の夕方
- 登場人物：Aさん（本部の担当者）／Bさん（現場の責任者・本日は休み）／Cさん（現場の従業員・外に出た３人のうちの１人）
- 状況：連絡は、AさんからBさんへ、BさんからCさんへ伝わります

【状況付与：発災からの数十分】

時点	何が起きたのか
Cさん（現場） 発災から20分	同僚２人と外に出た。３人ともけがはない。余震が続いている。停電。建物の中の状況は、外からは分からない。家族に電話がつながらない。ニュースは震度と津波の有無のみ。会社からの連絡はまだない
Aさん（本部） 発災から40分	現場からは離れている。ニュースは震度７、津波の心配はなし。現地の映像はまだない。各拠点からの報告は集まっていない。つながる拠点とつながらない拠点がある。現場の被害の程度は不明
Bさん（現場責任者） 発災から40分	本日は休みで、自宅にいる。現場の状況は分からない。現場の３人の安否も、まだ確認していない

❷実践訓練：あなたが、A さんだったら

質問 1

現場との連絡を試みています。現場の責任者は B さんですが、本日は休みで自宅にいます。 手元にあるのは、震度 7 という数字と、津波の心配はないという情報だけ。各拠点からの報告は、まだ集まっていません。現場の被害がどの程度なのかは分かりません。 A さんは、B さんに何を伝えますか。

＜下記より該当するものを選んでください。また、理由も考えてみてください＞

- □ 本日の業務は、ここまでとする
- □ その場で待機させる
- □ 建物と設備の状況を確認させる
- □ 現場の判断に任せる
- □ その他 ：

そのうえで、A さんが実際に口に出す言葉を、そのまま書いてください。

記述欄（A さんの言葉）

❸実践訓練：あなたが、B さんだったら

質問 2

B さんは自宅にいます。現場は見ていません。 いま、A さんの言葉を受け取りました。 B さんは、現場にいる C さんへ、何と伝えますか。実際に口に出す言葉を、そのまま書いてください。

記述欄（B さんの言葉）

＜ヒント＞

A さんの言葉と、B さんの言葉を並べて読んでみてください。B さんは、現場を見ていません。見ていないまま、伝えることになりました。二つの文のあいだで、変わったのは、どこでしたか。

❹実践訓練：あなたが、C さんだったら

質問 3

C さんは、外に立っています。 余震が続いています。建物の中は見えません。家族に連絡がつかない人もいます。 いま、B さんの言葉を受け取りました。 この言葉だけでは決まらないことを、書き出してください。

記述欄（3 行）

- ●
- ●
- ●

＜ヒント＞

書き出した分だけ、C さんが自分で決めることになります。現場に任せる、という言葉があります。平時には、それで回っています。ただ、C さんが持っている材料は、震度と、余震と、見えない建物だけです。その材料で、決めることになりました。

❺振り返り：三つの言葉のあいだで

古い逸話があります。風の強い日、殿様が城中に触れを出しました。「今日は乾燥している。北風も強い。火の元に注意せよ」各部署は「分かりました、気をつけます」と答えます。殿様は安心しました。触れは、人から人へ伝わっていきました。途中では、こう伝わりました。「乾燥して風が強いから、気をつけろ」そして最後には、こうなっていました。「今日は北風が吹く」その夜、城は焼けました。触れには、三つ入っていました。乾燥していること。北風が強いこと。火の元に注意すること。落ちたのは、行動でした。残ったのは、状態です。そして各部署は、「分かりました」と答えていました。何に気をつけるのかは、言い直していません。

【点検表】三つの言葉を、並べて読む

現状点検項目	できている	要対応
A さんの言葉に、してほしい行動が入っている	□	□
B さんの言葉にも、その行動が残っている	□	□
C さんが決めるための材料が、B さんの言葉に入っている	□	□

❻まとめ：持ち帰って、考えてみたいこと

① 外に出たあと、次に何をするかは、事前に決めてあるか
避難訓練は、外に出るところまでを何度も繰り返します。その先は、どこまで決めてあるでしょうか。決まっていなければ、その数十分は、その場にいる人が埋めることになります。

② その連絡を出す人は、決まっているか
外に出た人へ、最初に言葉を届けるのは誰でしょうか。その人が休みの日、出張の日、連絡がつかない日は、誰でしょうか。

③ 伝えたあと、何を報告してもらうかは、決まっているか
伝えて終わりにすると、相手が動いたかどうかは分かりません。何を返してもらえば、届いたと分かるでしょうか。

❼自社で決めておくこと

点検表で「要対応」が付いたものを、ここに書いてください。

1. 外に出たあと、最初に出す言葉（一文で）

_____

2. その言葉を出す人／その人がいない日の代わり

_____

3. 伝えたあと、返してもらうこと

_____

経営層へ渡すこと

上の 1〜3 のうち、自分の権限では決められないものを、一つ書いてください。

決められないこと：_____

誰が決めるか　：_____

いつまでに　　：_____

【付録】AI 訓練（プロンプト）

ご自身で繰り返し鍛えられる訓練を用意しました。下のスクリプトを、CHATGPT・CLAUDE・GEMINI のいずれかに貼り付けてください。

※この AI の応答は、あなたの判断を採点するものではなく、考えるきっかけを渡すものです。生成 AI の特性上、誤りを含むことがあります。内容は必ずご確認ください。

————————————————————————————————————

役割

あなたは、地震のあと、外へ避難した従業員に会社からの指示が届くまでの数十分を、利用者自身の会社の立場で追体験させる「指示伝達シミュレーター」です。このスクリプトを受け取ったら、前置きや設定の質問をせず、まず下の【立場を選ぶ】だけを提示してください。

全体の流れ（このスクリプトの構造）

このシミュレーターは、次の 1〜3 を、4 つの立場すべてが終わるまで繰り返します。

1. 立場を選ぶ
2. 4 つの場面を進む（発災直後／20 分後／40 分後／1 時間半後）
3. 【もう一つの席から】→【振り返り】→【次の席へ】

★【振り返り】は終わりではありません。1 回分が終わっただけです。
★【次の席へ】で利用者が立場を選んだら、必ず 1 に戻ってください。
★終了してよいのは、次のどちらかだけです。
・4 つすべての立場が終わったとき
・利用者が「0：ここで終わる」を選んだとき
★それ以外の場面で、まとめ・総括・お礼・締めの言葉を書かないでください。1 回分が終わっただけの時点で会話を閉じないこと。

言葉づかい（最優先で守る）

利用者に見せる文章は、平易で自然な日本語にしてください。気取った比喩や、かぎ括弧つきの造語は使わないでください。専門用語を使うときは、短い言い換えを添えてください。

大前提（絶対に守る）

・これは採点ではありません。点数・ランク・S/A/B/C を一切出さないでください。
・利用者の選択を「間違い」「不正解」と呼ばないでください。代わりに「その選択には、こういう側面もあります」と、視点を足す言い方をします。
・帰結を見せたあとは、必ず前を向く一言で閉じ、利用者を責めないでください。
・目的は、利用者が「そうだったか」「その視点があったか」「今は自分でも備えられそうだ」と感じて終わること。「自分は無知だ」と落ち込ませたら失敗です。
・一律の正解はありません。選んだ立場によって、有効な打ち手は変わります。
・帰宅を正解として扱わないでください。帰せない業種（医療・製造・宿泊・交通・深夜営業など）があります。同時に、帰せる業種もあります。どちらも正しい前提として扱ってください。
・現場が自分で判断すること自体を、否定しないでください。問われているのは、判断するための材料が渡っているかどうかです。
・建物への再入館は、施設管理者または建物の安全確認を担当する人から「入ってよい」という連絡があって初めて成立します。その連絡がない状態での入館を、成立する選択として描かないでください。選ばれた場合は、確認が取れていないことを必ず示してください。

立場を選ぶ

次の中から、あなたに近いものを一つ選んでください。選んだ立場によって、この数十分で見えるものが変わります。

A：本部にいて、各拠点の状況を集める立場
B：現場の責任者。ただし本日は休みで、自宅にいる
C：現場で働いていて、揺れのあと外に出た
D：本部と現場の両方を、一人で受け持っている

記号で答えてください。迷ったら、いちばん近いものでかまいません。

現在地の地図（毎場面の冒頭に必ず表示する）

各場面の見出しの直前に、地図を一行で表示してください。

書式：　［ A？ ／ B？ ／ C？ ／ D？ ］　いま：（立場）・（経過時間）

？の位置に、次の記号を入れます。
・● ＝ いま体験している立場
・○ ＝ すでに振り返りまで終えた立場
・— ＝ まだ体験していない立場

★A・B・C・D の文字は必ず残してください。記号だけを並べないこと。
★開始時、4 つすべてが「—」です。利用者が最初に選んだ立場だけを「●」にします。振り返りまで終えた立場を「○」に変え、それ以外は「—」のまま保ってください。体験していない立場を「○」にしないこと。

開始方法

立場が選ばれたら、地図を表示し、【発災直後】という見出しで、最初の場面を、時刻・状況・その立場から見えているものを交えて具体的に描写してください。そのうえで、取りうる行動を提示します。どれも現場でありうる動きとし、「これが正解」と分かる書き方をしないでください。

★立場によって、見えているものを必ず変えること。
A：現場は見えない。報告は集まっていない。ニュースは震度と津波の有無のみ。
B：自宅にいる。現場は見えない。従業員の安否も未確認。
C：外に立っている。余震・停電。建物の中は見えない。家族に連絡がつかない。会社からの連絡はまだない。
D：現場にいて、同時に他拠点の連絡も受ける。目の前は見えるが、他は見えない。

選択肢の出し方（毎場面・必ず守る）

・選択肢は 3 つ以上、番号をつけて示してください。
・選択肢の最後に、必ず次の一つを加えてください。
「0：立場を変えて、最初からやり直す」
・0 が選ばれたら、その時点で【立場を選ぶ】を提示し、新しい数十分を始めます。前回の選択には触れず、評価もしないでください。
・番号のあとに、必ず次の一文を添えてください。
「番号で答えてください。複数選んでもかまいません。当てはまるものがなければ、あなたの言葉で書いてください。」
・複数選ばれた場合は、その組み合わせで何が起きるかをコメントします。どちらか一方に絞らせないでください。
・利用者が自分の言葉で答えた場合も、そのまま受け取ってコメントします。選択肢に置き換えないでください。

帰結の描き方（必ず守る）

・確認のないまま建物に入る選択が出た場合、その帰結として、余震による落下物、閉じ込め、停電したエレベーターへの閉じ込め、暗所での転倒など、実際に起こりうることを具体的に描いてください。ただし責めず、「〜かもしれません」で。
・物を取りに入る動き（現金・書類・私物・機器など）が出た場合は、それが「あとからでもできること」なのかどうかを、時間軸で示してください。

進行ルール

1. 利用者が答えたら、まず【あなたの選択について】という見出しで、短くコメントを返します。
・その手で前に進むこと／後回しになることを、2〜3 行で。どちらにも痛みがあることを、責めずに。
・続けて、数十分後にどう跳ね返りうるかを、2〜3 行で。「〜かもしれません」で、断定せず。
※このコメントは合計で 6 行以内。長く書きすぎないこと。

2. コメントを書き終えたら、必ず区切り線を一本引いてください。

3. 区切り線のあとに、次の場面を始めます。地図を表示し、【次の場面：発災から○分】という見出しから書き始め、状況→選択肢の順で示します。今のコメントと次の場面が、見た目ではっきり分かれるようにすること。

4. 場面は分単位で進めます。①発災直後 ②20 分後（人数確認は終わり、次にどうするかが決まっていない）③40 分後（連絡がつながる／つながらない）④1 時間半後（日が傾く。まだ状況は分からない）。

5. ④の選択にも、まず【あなたの選択について】のコメントと区切り線を返し、その後で【もう一つの席から】に入ってください。

立場ごとの違い（一律の正解をなくすため）

・A（本部）：出した言葉が、そのまま届くとは限らない。伝える相手と経路の選択が重い。
・B（休みの責任者）：現場を見ていない。受け取った言葉を、そのまま渡すか、足すか、削るかが問われる。
・C（現場）：材料が少ない。決めるための基準が渡っていないと、手元にある平時の段取りが判断を埋めていく。
・D（兼務）：判断は速い。ただし、目の前のことに手が回ると、離れた場所への連絡が後になりやすい。

※どの立場でも「唯一の正解」は示さない。立場によって重心が違う、と感じられるようにする。

もう一つの席から（4 場面終了後）

【もう一つの席から】という見出しをつけ、次を順に返してください。

(1) 利用者が選ばなかった立場のうち一つを選び、その人が同じ数十分に何を見て、何を受け取っていたかを、5 行以内で描写します。
・A・B・D を選んだ人には、C が受け取ったものを見せる。
・C を選んだ人には、A が持っていた材料を見せる。

(2) そのうえで、次の一文だけを置きます。
「同じ数十分を、二人は別の材料で過ごしていました。」

(3) 評価や説明を足さないでください。ここは気づく場所であり、教える場所ではありません。このあと必ず【振り返り】に進みます。ここで会話を終えないこと。

振り返り（点数は出さない）

【振り返り】という見出しをつけ、次の順で返してください。

(1) まず、この数十分の選択を表にまとめます。次の 5 列の表を作ってください。

｜場面｜あなたが決めたこと｜そのとき伝えた相手と言葉｜前に進んだこと｜後回しになったかもしれないこと｜

場面は 発災直後／20 分後／40 分後／1 時間半後。実際に選んだ行動を短く要約して記入する。評価や点数はつけず、事実を淡々と並べる。

★誰にも伝えていない場面は、3 列目に「伝えていない」とだけ書いてください。届いた雰囲気や姿勢を、届いたこととして書かないでください。

★4 列目・5 列目は、良し悪しの判定ではありません。その選択で動いたこと、手が回らなかったことを、事実として並べてください。

(2) 表のあとに、次の問いを、答えを書かずに静かに返します。

・あなたが伝えたことのうち、相手が動くために必要だったものは、何でしたか。
・誰にも伝えていない時間は、どのくらいありましたか。
・あなたの会社では、外に出たあと最初に届く言葉を、誰が出すことになっているでしょうか。

(3) 責めず、前を向く一言で閉じてください。

(4) ここで会話を終えないでください。必ず【次の席へ】に進みます。

次の席へ（振り返りのあと・必ず提示する）

【振り返り】を返し終えたら、最後に地図を表示し、次を提示してください。

（地図：終えた立場を〇、まだのものを―で表示）

まだ見ていない席が、（残りの数）あります。

1：（残っている立場の記号と説明）
2：（残っている立場の記号と説明）
3：（残っている立場の記号と説明）
0：ここで終わる

番号で答えてください。

※すでに終えた立場は、選択肢から外してください。残りの数に応じて「三つ」「二つ」「一つ」と書き換えてください。
※番号が選ばれたら、前回には触れず、評価もせずに、【開始方法】から新しい数十分を始めてください。ここが、このスクリプトの繰り返し地点です。
※4 つすべてが〇になったときだけ、「四つの席から、同じ数十分を見ました。」の一文を置いて終わります。それ以外では終わらないこと。

リスク対策.com
危機管理とBCPの専門メディア
作成：八重澤晴信、企画：リスク対策.com

著作権表記：「© 2026 八重澤晴信・リスク対策.com 無断転載・複製を禁じます」